

## 第 4 回秩父市総合教育会議議事録

期 日	平成 28 年 2 月 12 日 ( 金曜日 )
時間・場所	13 時 30 分～15 時・芸術文化会館 2 階会議室
出席者	<p>久喜市長、新谷教育長、新井(康)教育委員、山中教育委員、久保教育委員、新井(正)教育委員</p> <p>市長室長、地域政策課長、地域政策課主査</p> <p>教育委員会事務局長、教育委員会事務局次長 2 名 (教育総務課長兼務、学校教育課長兼務)、総務課長</p> <p>※以下の者は (2) の議事まで出席。</p> <p>市民部長、市民スポーツ課長、生涯学習課長、中央公民館長、秩父図書館長、保健給食課長、文化財保護課長、教育研究所長</p>
会議内容	<p>○議事</p> <p>(1) 秩父市教育大綱について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より、前回総合教育会議を受けて修正した教育大綱を提示。なお、総合振興計画のパブリックコメント及び総合振興計画調査特別委員会で特段の意見がなかったことを報告。</li> <li>→埼玉県から「埼玉教育の振興に関する大綱」が出されたが、市の教育大綱と整合していると判断できる。(新谷教育長)</li> <li>→その他委員からの特段の意見もなく、原案で確定とする。</li> </ul> <p>(2) 教育関連予算について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育関連の主な事業と予算について、教育総務課長、学校教育課長、保健給食課長、文化財保護課長、教育研究所長、市民スポーツ課長、生涯学習課長、中央公民館長、秩父図書館長から説明。</li> <li>・平成 27 年 12 月定例会において、ICT 活用、学校訪問、英語教育について取り組むと教育長が答弁していた。先ほどの説明に ICT 活用の説明はあったが、その他はどうなっているか。(久保委員)</li> <li>→学校訪問は体制をとって職員が回り、学力向上についての指導に回っている。英語教育は先進校の視察などにより研究をしている。また、英検の合格率を高めるため、土曜英語学習授業を年 10 回実施している。(学校教育課長)</li> <li>→その他、予算がかからないやり方も検討している。例えばラジオ英会話の活用や ALT との関係を密にした英語の取り組みができるよう進めている。(新谷教育長)</li> <li>・師範塾はどうなっているのか。(新井康委員)</li> <li>→教師の能力向上、指導力向上のための取り組みもやっていく。(教育研究所長)</li> </ul>

・学校教育推進事業、放課後児童対策事業は、新規の ICT 活用教育推進事業の 1,700 千円に比べ予算が多いようだが、どのようなものに使われているのか。(山中委員)

→ふれあい学校の補助員や学童クラブの人件費となっている。(学校教育課長)

・小中学校のエアコンの整備の設置率 100%はいつ達成できるのか。(新井正委員)

→予算のこともあるが、平成 31 年度を目標としている。(教育総務課長)

→設置予算の財源に関し、国の補助金は耐震化に対するものが優先されている。また、全国からエアコン設置に関する補助金の要望は多く、補助金獲得は難しい状況となっており、補正予算に期待している。(新谷教育長)

### (3) 教育施策について

・学校教育課長より、市の放課後児童対策（学童保育室とふれあい学校）の現状について説明。今後、総合教育会議で協議していく予定。

### ○その他

・国では、平成 25 年に公布された「いじめ防止対策推進法」に基づき、「いじめ防止対策基本方針」を策定した。秩父市では、法で策定が義務付けられている「学校いじめ防止基本方針」を全小中学校で定め、運用中。一方、地方公共団体が策定する「地方いじめ防止基本方針」は努力規定となっていたこともあり、秩父市では策定されていなかったようだが、今後、国の基本方針を参酌し早急に定めたい。また、「いじめ問題対策連絡協議会」の設置も進めたい。(新谷教育長)

→いじめの解決は相談されてからの受け身が多いが、先生など学校側からのいじめの見つけ方など研究するべき。(新井康委員)

→つい先日、いじめ・不登校対策推進委員会が開催された。その中で、いじめに関するアンケートは必ず実施すること、気になる児童・生徒がいた場合はその段階でチェックリストにより対応すること、また、国からの資料等、積極的に知識を高めることなどを話した。(学校教育課長)

→早期発見を目指してほしい。そのためにも、指導主事の体制を充実させ、学校に積極的に関わり、情報収集してほしい。(久喜市長)

→校長会において、いじめほどの学校にも起こり得るものであり、いじめがあることでその学校をダメと判断しないが、いじめがあるにも関わらず、または、あることが疑われるにも関わらず対応

しないことはダメであることを再確認した。いじめの認知件数は増えるかもしれないが、放置することなく、隠すことなく対応するようにと念を押した。(新谷教育長)

→いじめには様々な事情があり、一概に言えるものではないが、子どもたちには、いじめに負けない根性を身に付けてもらいたい。そのためには特にスポーツをするのがよいと考えている。勝ち負けというのは逆境に負けないという強い心を育てる。(久喜市長)

以上